



### 牛乳パックでハガキができたよ

7月26日(土)、保健センターで「牛乳パックでハガキをつくってみよう!」が行われました。これは、金巻・興野地区の健康づくり活動の一環として、身近な材料を使ってリサイクル体験をすることによって、ゴミの減量化やゴミ事情の関心を高め、健康生活に欠かせない生活環境を見直そうと行われたものです。親子41人の参加者は、石けん液で溶かした牛乳パックの繊維を木枠ですくい、思い思いに押し花や色のついたハガキをつくっていました。



### 当町初の公募型指名競争入札

7月28日(月)、小平方地内で、一般廃棄物最終処分場第2期工事の安全祈願祭が行われました。今回の工事は、当町初の公募型指名競争入札で契約されたもので、現在の処分場の隣接地に7,200㎡の規模で平成10年4月の完成をめどに建設されます。町長をはじめ、地元自治会、関係者ら約40人が参加し工事の安全を祈りました。

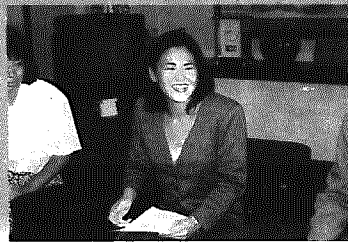


8月1日(金)、「夏の道ゆとりの心でさわやか夏転」をスローガンに、夏の全国交通事故防止運動が行われました。建設省国道工事事務所黒崎出張所で、国道8号を行き来するドライバーに、交通安全指導員らの皆さんは、黒崎茶豆を配りながら、「枝豆のように、まめに注意しながら運転してください」と声をかけていました。



### 茶豆のようにまめな運転を

7月31日(木)、中学校の新しい英語指導助手として、グレース・サトーさんへ町長から辞令が交付されました。サトーさんは、ロサンゼルス出身の日系アメリカ人で、大学では心理学を専攻し、2年間子どもたちに日本語を教えました。「語学指導を通じて日本語を学び、アメリカ文化を分かち合いたい」と抱負を述べていました。



### ようこそ! ミス・サトー

8月8日(金)、県庁で大野小学校二之町子供会の方々が、道路整備等功労者として建設大臣から表彰されました。これは、同会が昭和53年から国道8号大野地下横断歩道を美しく保とうと自主的に清掃していたものが認められたものです。表彰を受けた子供たちは「これからも自分たちが通学する地下道をきれいにしていきたい」と話していました。



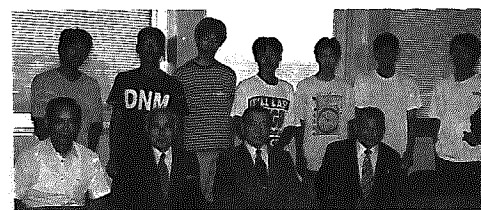
### 二之町子供会が建設大臣表彰

### 夏休みも絵本を楽しもう



8月2日(土)、農村環境改善センターで、夏休み絵本を楽しむ集いが開催されました。これは、新潟県絵本を楽しむ会の皆さんが、絵本の読み聞かせや手遊び、パネルシアターなどを行ったものです。集まった親子など約60人の参加者は熱心にお話に聞き入っていました。

### 少年チームも全国大会へ



ゲートボールの少年チーム「黒崎K」が、8月9日・10日に東京都の夢の島競技場で行われる第2回全国ジュニアゲートボール大会に出場するのに先立ち、8月7日(木)、町長を表敬訪問しました。町長の「暑さに負けず、最高のコンディションで頑張ってきてください」との激励に、「精一杯やります」と元気な声で答えていました。

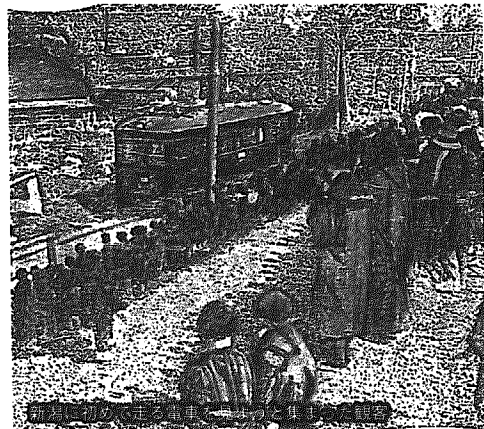


### 電車の開通によりバス会社は値下げをした

執筆 宮田 栄門

(先月号からの続き)  
昭和八年四月一日の電車開通に先立って新潟新聞では次のような大々的な宣伝をしていた。  
昭和八年三月一日記事「スピードアップ新潟電鉄。地方産業の振興に貢献する所甚大!!」  
現在一時間三〇マイル以上を走る地方鉄道は京阪、阪神の急行電車位のものであるが、近々開通する中ノ口電鉄の速度は平均一時間三〇マイルの計画である。(昭和七年七月七日新潟電鉄株式会社と改称)……中略……現在本県内を走る汽車は急行でも一時間漸く二〇マイル位のことであるから、如何にスピード時代にふさわしい車両かがうかがわれる。……後略。  
註 三〇マイルは、時速約五〇キロ。  
今日、高速自動車道での自動車の最高時速は一〇〇キロ、軌道車では新幹線東京-新潟間一時間五〇分、自動車では約四時間たらざり行けるという高速交通時代となったが、今から六十余年前の昭和七年には、これから開通予定(翌八年四月)の新潟電鉄のスピードが約五〇キロで、高速を誇る京阪、阪神列車の時速と同じ位

で、当時の国鉄の急行よりも早いというから驚きである。  
昭和八年三月二十六日記事「東関屋-白根間電鉄いよいよ四月一日から」  
新潟電鉄株式会社では、東関屋-白根間の開通いよいよ迫り、目下その諸般準備に忙殺されているが、右開通について来る二十六、廿七日には通信省の電気検査も終了し、二十八日より三十日区間の試運転を行い、いよいよ四月一日より開業することに決定した。尚乗車賃の点については出来る限り低廉にすることにし、特に開業当日より二週間(四月一日より十四日まで)開通祝いとして普通賃金の三割引で奉仕することになり、即ち東関屋-大野間十一銭(普通賃金十五銭の三割引)、東関屋-白根間二十八銭(普通賃金四十銭の三割引)、しかして開通祝賀式は全線開通の際盛大に挙行する予定になっている。  
これは、電鉄東関屋-白根間の開通が後数日に迫り、通信省や鉄道省の検査後、三十一日に同区間の試運転を行い、四月一日からの開通が決まったというのである。電車の乗車賃(黒崎



では電車ちゃんと言った)は「東関屋-越後大野駅間十五銭」「東関屋駅-白根間四十銭」と、当時新潟-大野、白根間を走っていた乗合バス二社(新潟合同自動車と白根自動車、昭和十一年十一月合併)の料金六十銭と比べかなりの低料金だった。この新潟電鉄の大きな特徴と魅力は自動車に倍する輸送力の増大と、スピードアップにあった。  
注 電車開通後、両バス会社が安い電車ちゃんに対抗上、バス運賃値下げをした記事も載っていた。  
昭和八年四月二日記事「一日開通、電車が走る!!」  
新潟電鉄株式会社の経営になる東関屋-白根間の新軌道車は、昨夕刊所報の通り一日から開通したが、これより先に、始発東関屋駅前、午前五時五十分発の一番電車が乗り込まれるものと、気早の試乗者の連中や、電車を見ようとする人達が早朝からワンサワンサと押しかけてくる一方、新潟に初めて電車が走るといふ珍しまがれの見物人時々ならぬ雑踏を呈した。かくて改札となるや係員の制止も聞かばこそ、なだれをうって車内に飛び込むなど、開通第一日は折

柄の快晴に恵まれて大盛況を呈し、かくて電車は文字通り超満員裡に盛春の朝霧を衝いて来たかも前途を祝福するが如く、心地よい響きを立て新軌道を滑らかに走り出した。かくて一分二分、瞬く内に平島駅に着いたかと思ふ間もなく、焼酎駅を越てもう越後大野駅に着いた。軌道車は何とんでも乗り心地の良いことが特徴で、途中車道におもつがなから震動はごく軽微で片やたんたたる越後平野を鑑賞しながら疾走する気分は正に百パーセントの爽快感を覚える。かくする内に木場、板井、吉江、味方の駅や停留所を経てもう終点白根駅に到着した。途中各駅には小旗を振りかざして電車の通過を歓迎する子供達の面上にも喜びの色がふれて今日の佳日を祝うが如く見えた。……後略。  
これは、新潟に初めて電車が走った四月一日の様である。その日、一番電車を見ようとして暗いうちから団九郎の東関屋駅周辺に大勢の人たちが詰めかけた。改札が始まるや電車に乗る人が、我先になだれをうって車内に飛び込んだと記されており、電車の珍しさと、その開通を喜ぶ人々の姿や表情がよく現れている。やがて超満員の電車は晴天の朝霧を衝いて東関屋駅を発車した。当時のこぼこ穴だらけの砂利道を走る自動車と違って、軌道を走る電車の震動の少なさと、飛ぶように変わる窓外の景色とスピード感を試乗者たちは堪能した。瞬く内に西蒲平野の平島、焼酎を経て越後大野駅に到着した。越後大野駅を発するや(新大野停留所はまだなかった)中ノ口川堤防沿いに木場駅、板井、吉江の停留所から味方駅を通過したと思つともう終点白根駅である。経過した時間は僅か三十分、当時のバスの半分に近いそのスピードに人々は驚いた。  
また、各駅や停留所には子供や大勢の人々が電車の開通を歓迎し、日の丸の小旗を振っているうれしそうな表情が実に生々しく描写されており、どれほど人々がこの電車の開通を待ち望んでいたかがうかがわれる。(続)